

令和7年度 江戸川区立鹿骨中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	・みずから学び考えて行動する生徒 ・思いやりのある豊かな心をもった生徒 ・健康で明るく勤労と責任を重んじる生徒		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・共に磨きあうみんなが幸せになれる学校 ・主体的に切り拓く、自ら進んで、対話を大切にし、健康で、自他を大切にする生徒 ・チーム鹿骨で生徒を最も大切にする教職員、指導力、支援力のある教職員、自ら学び続ける教職員、30年後を見て教育ができる教職員、保護者、地域と協働できる教職員、保護者の思い、地域の願いを受け止める教職員	
前年度までの本校の現状	成果	一人一人の個性や特性を大切にした教育活動を通して、生徒に成就感を味わわせることができた。授業を大切にする姿勢が身に付き落ち着いた学校生活が実現した。	課題	一人一人の課題を解決できる授業力の向上。生徒が失敗を恐れず挑戦する力を向上させる。教育相談体制の確立。ＩＣＴを活用した指導の充実。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	確かな学力の向上	①鹿骨スタンダードの実践 ②「わかる授業」の実践 ③あじみこしの実践 ④教育課題実践推進校の取り組みによる授業改善	①「わかる授業」生徒の肯定的な意見を80% ②「基礎基本が身につく授業」の肯定的な意見を80%	A	A	A	生徒アンケート「分かりやすく興味関心もてる授業を行っている」で94.9%、「基礎・基本が身に付く授業を行っている」で98.2%の肯定的な回答だった。	A	楽しく、分かりやすい授業を行っていただいている。生徒とコミュニケーションをよく取ってくださりありがたい。	A	生徒アンケート「分かりやすく興味関心もてる授業を行っている」で93.8%、「基礎・基本が身に付く授業を行っている」で96.7%の肯定的な回答だった。	A	引き続き、学力向上へ向けて小学校とも連携しながら取組を進めていってほしい。	②「わかる授業」について、学習内容の定着をより進めていく。
	〇読書科の更なる充実	①図書館を利用した探究的な学習 ②読書科ノートの活用、POPづくりやビブリオバトル ③教科での図書館活用（全教科年1回以上）	①図書館を利用した「調べる学習」生徒80% ②未読率0% 探究的な学習80% ③「授業で図書館を利用した」生徒100%	B	B	B	①生徒アンケート「授業や調べ学習で学校図書館を活用している」で39.4%の肯定的な回答だった。各教科で積極的活用を推進する。	B	図書館の活用状況が改善することで、学力向上につながると考えられるので、改善を進めていってもらいたい。	B	①生徒アンケート「授業や調べ学習で学校図書館を活用している」で41.0%、②読書科で情報を集め、自分で決めた課題について分かりやすくまとめている」で73.0%の肯定的な回答だった。③全学級の授業で図書館を使用する機会を設定した。	B	生徒はiPadで検索をしがちなので、図書館資料の活用を意識させてほしい。	読書科に加え、各教科の授業での図書館活用を引き続き推進していく。
体力向上	〇個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	①体力テストの測定と結果の活用 ②保健体育科の授業での補強運動の実施 ③食育指導日の設定（栄養士との連携）	①②「体力調査の結果」江戸川区東京都の平均以上 ③「食を意識して生活している」生徒70%	A	A	A	③生徒アンケート「食を意識して生活している」で85.6%の肯定的な回答だった。引き続き、「早寝早起き朝ごはん」の啓発を進めていく。	A	良いと考える。引き続き指導をお願いしたい。	A	①②「体力調査の結果」江戸川区東京都の平均以上を達成した。 ③生徒アンケート「食を意識して生活している」で88.3%の肯定的な回答だった。	A	良い結果になった。引き続き指導をお願いしたい。	「早寝早起き朝ごはん」の啓発を引き続き進めていく。
実現に向けた教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	①特別支援教室の組織的運営 ②個別指導計画の作成と共有 ③支援を要する生徒の早期発見・対応 ④副籍交流 ⑤外国との交流	①「利用してよかった」特別支援教室利用生徒・保護者各80% ②「先生やSCに相談しやすい」生徒、90% ④、副籍交流の実施 ⑤海外の教員との交流	A	A	A	②生徒アンケート「先生やSCに相談しやすい」で76.2%が肯定的な回答だった。SC3名体制を生かし、より相談の機会を増やす。 ⑤7月にアメリカ合衆国教員との交流を実施できた。	A	②SCが3人になり、相談しやすくなった。 ⑤海外の教員との交流は生徒にとって貴重な体験になった。	A	①「利用してよかった」利用生徒・保護者の割合が80%を超えている。 ②生徒アンケート「先生やSCに相談しやすい」で77.2%が肯定的回答であった。 ③特別支援校内委員会を通じて支援を要する生徒の早期発見・対応につながっている。	A	成果が出ているので、今後も相談しやすい学校であってほしい。	スクールカウンセラーだよりなどを活用し、相談しやすい環境づくりに努めていく。
不登校の・充い実じめ対応	子どもたちの健全育成	①いじめ撲滅宣言 ②年3回アンケートを実施 ③鹿骨SNSルール ④不登校生徒に寄り添う指導（エンカレッジルームの活用等） ⑤居場所となる学級指導	①「いじめの重大事態の発生件数」を0にする。 ②いじめ事案の解消を100%にする。 ③「鹿骨SNSルールを守っている」生徒80% ④不登校生徒4% ⑤SC、SSWの活用	A	A	A	①いじめ重大事態の発生は0であった。 ③生徒アンケート「鹿骨SNSルールを守っている」と回答した生徒の割合は98.2%だった。 ④不登校生徒出現率は4%を下回っている。	A	④不登校が少ないのがよい。このまま増えないことを願いたい。	A	①発生件数は0件であった。 ②事案に対し、連携を進めながら解消できた。 ③生徒アンケート「鹿骨SNSルールを守っている」と回答した生徒の割合は96.7%だった。 ④不登校生徒出現率は4%を下回っている。 ⑤連携を十分行えている。	A	④不登校が少ないので、このまま一人一人に応じた指導を進めていってほしい。	引き続き、関係機関との連携を推進し、健全育成を図っていく。不登校対策コーディネーターの活用を充実する。

令和7年度 江戸川区立鹿骨中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	・みずから学び考えて行動する生徒 ・思いやりのある豊かな心をもった生徒 ・健康で明るく勤労と責任を重んじる生徒		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・共に磨きあうみんなが幸せになれる学校 ・主体的に切り拓く、自ら進んで、対話を大切にし、健康で、自他を大切にする生徒 ・チーム鹿骨で生徒を最も大切にする教職員、指導力、支援力のある教職員、自ら学び続ける教職員、30年後を見て教育ができる教職員、 保護者、地域と協働できる教職員、保護者の思い、地域の願いを受け止める教職員	
前年度までの本校の現状	成果	一人一人の個性や特性を大切にした教育活動を通して、生徒に成就感を味わわせることができた。 授業を大切にする姿勢が身に付き落ち着いた学校生活が実現した。	課題	一人一人の課題を解決できる授業力の向上。生徒が失敗を恐れず挑戦する力を向上させる。教育相談体制の確立。ＩＣＴを活用した指導の充実。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学校（園）の 開かれた 地域社会に の実現	ホームページ等による情報公開	①ホームページの充実 ②学校応援団の活用 ③花いっぱい運動	①ホームページの更新回数 ②地域行事への参加人数	A	A	A	②鹿骨区民館まつりに30名のボランティア及び吹奏楽部が参加 ③花いっぱい運動に20名の生徒が参加	A	②区民まつりにはたくさんの生徒が参加していた。もっと参加者が増えるとうい。	B	①記事の更新回数を1学期比で増やすことができた。 ②鹿本地区ふれあい運動会に6名、鹿骨地区安心・安全ボランティアに6名のボランティア生徒が参加した。	B	②参加生徒が増えるよう、今まで以上に積極的に呼びかけを行ってほしい。	朝礼等での呼びかけなど、ボランティア募集の案内回数を増やす。
	学校関係者評価の充実	①学校関係者評価年3回のアンケートの実施 ②保護者アンケート年2回の実施	①アンケート回収率80%	B	B	B	①保護者アンケートの回収率が46.9%となった。アンケートの依頼通知を増やす、保護者会で発信する等の取組が必要である。	B	①保護者への依頼をさらにを行い、回収率が上がるとよい。	B	①アンケートの依頼通知を増やしたが、第2回保護者アンケートの回収率が55.8%となった。保護者会で発信する等の取組が必要である。	B	①アンケート回収率が上がりよかったが、もっと向上できるような発信を継続してほしい。	保護者会でのお知らせ、学校だよりでの案内など、保護者へ発信する機会を増やしていく。
	地域と生徒が協力した行事の実施	ポブラ祭の実施	10月に開催予定	A	A	A	10月に開催予定	A	10月に開催予定	A	雨天のため場所を変更して実施したが、PTAと生徒が協働し、生徒が主体的に活躍できた。	A	引き続き、この地域の良さを活かしたボランティア活動を推進してほしい。	実行委員募集など、生徒への発信を進め、参加生徒を増やしていく。
教育の 特色ある 展開	「学校における働き方改革プラン」	①「部活動ガイドラインの徹底 ②部活動指導員・外部指導員の活用 ③学校閉鎖期間の設定 ④定時退勤日の設定学校における働き方改革プラン」 に基づく取組の実施	教員の時間外在校時間を全員60時間以下を目標にする 部活動指導員の活用 部活動外部指導員活用	B	B	B	時間外在校時間月間60時間以上の教員が数名いる。 部活動指導員3名、部活動外部指導員5名が指導にあたっている。	B	教職員の健康が生徒の健全育成にもつながると思うので、引き続き、取り組みをお願いしたい。	B	①時間外在校時間が60時間以上の教員数は減っているが、0にはなっていない。 ②部活動外部指導員を1名増員した。 ③冬季休業中の年末年始に設定した。 ④定時退庁日を設定できなかった。	B	生徒のためにも先生方には心身ともに健康でいていただきたい。	在校時間の見直しを進めていき、精選を図っていく。
	共磨き生徒が主体なる学校行事	①運動会の実施 ②合唱コンクールの実施	実施後の生徒アンケート肯定的な意見80%以上	A	A	A	生徒アンケート「学校は一人一人の良さや可能性を伸ばす活動を行っている」で98.2%が肯定的な回答だった。	A	運動会では生徒の活躍する姿をたくさん見られてよかった。	A	生徒アンケート「学校は一人一人の良さや可能性を伸ばす活動を行っている」で95.4%が肯定的な回答だった。	A	生徒が生き生きと活動していて良かった。	学校行事における生徒の主体的な活動を引き続き行っていく。